

腎臓内科専門外来のご案内

専門外来を川崎幸クリニック、川崎クリニック、さいわい鹿島田クリニックにて行っております。患者さんのご都合に合わせて、最寄りの外来クリニックをご予約下さい。また、川崎クリニックではCAPD(腹膜透析)外来を行っております。ご希望の予約がとりにくい場合もございます。その際は、川崎幸病院地域医療連携室までご相談ください。また、救急疾患、入院治療は川崎幸病院で行っております。緊急を要する際には川崎幸病院に御連絡ください。

腎臓内科専門外来担当表 (2018.7現在)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
	午前			佐藤 文絵	小向 大輔	大宮 信哉
	午後	中島 豊	中島 豊	宇田 晋		
	午前	熊田 千晶	宇田 晋	加藤 亜唯	中島 豊 (CAPD外来)	酒井 行直
	午後		穴戸 寛治	加藤 亜唯 (CAPD外来)	金子 朋広	中島 豊
				若狭 幹雄	小向 大輔 (CAPD外来)	中島 豊 (CAPD外来)
	午後				朝倉/木暮	



川崎市幸区南幸町1-27-1

☎:044-511-2112



川崎市川崎区日進町7-1 川崎日進町ビルディング6・7・8F

☎:044-222-9259



川崎市幸区新塚越201番地ルリエ新川崎3F、4F

☎:044-556-2722

救急/入院



川崎市幸区大宮町31番27

代表: (24時間対応)

☎:044-544-4611

連携室直通:

☎:044-544-4638



社会医療法人財団 石心会
川崎幸病院

患者支援センター
地域医療連携室ニュース

2018 Vol.2

川崎幸病院 患者支援センター 地域医療連携室 TEL:044-544-4611(代)
〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町31番27



川崎幸病院 腎臓内科診療体制のご紹介

開業医の先生方と face to face の関係づくりを



川崎幸病院
腎臓内科部長
宇田 晋

■ 略歴

- 1987年 昭和大学藤が丘病院 内科
- 1989年 昭和大学藤が丘病院 腎臓内科
- 2001年 神戸大学附属病院代謝機能疾患治療部
- 2003年 東芝林間病院 腎臓内科
- 2006年 関東労災病院 腎臓内科
- 2015年 川崎幸病院 腎臓内科

■ 認定資格等

- 日本内科学会認定医・総合内科専門医
- 日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
- 日本透析医学会専門医・指導医・評議員
- 日本腎臓リハビリテーション学会代議員

平素より大変お世話になっております。日頃は患者さんをご紹介をいただき誠にありがとうございます。

腎臓内科は現在【部長】宇田晋【副部長】小向大輔に加え、加藤亜唯、柏葉裕の計4名で日常診療にあたっています。

私たちは以下に示す診療対象疾患に関して日々診療を行っております。基本的には当医療法人の外来を経て入院される患者さんが多いのですが、そのほか腎臓内科のない近隣の病院からの入院依頼も積極的にお受けしています。さらには透析クリニックからの合併症治療に対する入院も多々あります。このようにいろいろな腎疾患を持った患者さんが入院されるこの状況は私たちにとりましても日々研鑽を積む貴重な機会となっています。

また当科医員全員が専門的知識および技術の習得にはとても意欲的であり、毎週行っている回診、カンファレンスのみならず、医員全体のレベルアップを目的とした勉強会を開催し、さらには研究会や学会発表も積極的に行なっています。

一方、私たちは慢性腎臓病(CKD)対策をはじめとした川崎南部地域の腎臓内科医療はまだまだ発展途上と考えており、現在年に数回地域の開業の先生方と病診連携の会を開催させていただいております。地域医療の充実には病診間のface to faceの関係づくりが不可欠です。よって私たちは今後もこのような試みを積極的に実行していきます。

診療対象疾患

- 急性および慢性糸球体腎炎, ネフローゼ症候群
- 急性および慢性腎不全(慢性腎臓病: CKD)
- 水・電解質・酸塩基平衡異常
- 長期維持透析患者の合併症, バスキュラーアクセストラブル



尿タンパクなどの検尿異常から国民病ともいえる慢性腎臓病まで多岐にわたり総合的かつ集約的な診療を行います

右記のような患者さんをご紹介ください

当科に患者さんをご紹介いただく際の、一つの目安としてお考えください。先生方からのご紹介に対して迅速に対応させていただきます。今後ともよろしくご依頼致します。

- ① 0.50g/gクレアチニン 以上, 2+以上の蛋白尿
- ② 蛋白尿と血尿がともに陽性(1+以上)
- ③ 推算GFR<50mL/分/1.73m²
- ④ 血圧のコントロールがつきにくい
- ⑤ 腎機能が次第に悪くなる



診療実績

川崎幸病院では、透析療法導入および他科で入院中の患者さんを中心に血液透析を行っています。さらに、当法人内外来透析施設である川崎クリニック・さいわい鹿島田クリニックと連携し、治療を行っています。また、腹膜透析(CAPD)については、川崎クリニックにて外来診療を行っております。

■ 透析導入

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
HD導入	35	40	70	51
CAPD導入	7	8	9	9

■ 治療実績

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
バスキュラーアクセス造設術	74	72	76	56
シャントPTA	85	134	40	35
透析長期留置カテーテル挿入	7	35	18	11
腹腔鏡下腹膜透析カテーテル挿入	8	13	10	12

■ 腎生検

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
IgA腎症	7	7	11	12
半月体形成性腎炎	3	2	0	0
糖尿病性腎症	3	0	1	2
良性腎硬化症	2	2	1	3
膜性腎症	2	4	3	2
Minor glomerular abnormalities	2	1	2	3
微小変化型ネフローゼ症候群	0	2	2	1
ループス腎炎	0	1	0	0
紫斑病性腎炎	0	1	0	0
肥満腎症	0	0	1	2
間質性腎炎	0	0	1	3
メサングウム増殖性糸球体腎炎	0	1	0	0
菲薄基底膜病	0	0	0	2
その他	5	1	1	3
計	24	22	23	33



● 慢性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群 などの腎疾患

積極的に腎生検などの検査を行って確定診断し、最も適切な治療法を選択します。我が国で一番多い腎炎の原因はIgA腎症ですが、同腎炎の場合には扁桃腺摘出術に加え、副腎皮質ステロイドのパルス療法を原則的に行う方針です。残念ながら当院には耳鼻咽喉科がないためその必要がある場合には信頼できる病院を紹介し扁桃腺摘出術を受けていただき、その後当院でステロイドパルス療法を行います。病院にもよりますが扁桃腺摘出術は約1週間の入院、ステロイドパルス療法には約3週間の入院が必要です(状況により一部を外来で行うことにより入院期間を短縮することも可能です)。

若年発症の頻回再発型、あるいはステロイド依存性の特発性ネフローゼ症候群の患者さんに対して状況によりリツキシマブ投与を行うこともできます。

難治性の巣状糸球体硬化症の患者さんに対し、LDL吸着療法を行うことも可能です。

これらの疾患に対してセカンドオピニオン外来も行っています。

● 水・電解質異常

その原因を追究し、最も適切な治療を致します。高カリウム血症、低カリウム血症のみならず、高カルシウム血症や低カルシウム血症、低リン血症なども含め、骨代謝性疾患なども私達の守備範囲内です。

● 腎代替療法選択

不幸にして腎機能が低下してしまった場合には腎臓の働きを代替する治療が必要になります。当院では血液透析療法に加え腹膜透析療法も積極的に行っています。血液透析は当院および川崎クリニックやさいわい鹿島田クリニックで継続的に行うことが可能ですし、他院への紹介もご希望により行っています。一方、腹膜透析は県内でも上位にランクされる患者数を拝見させていただいております。その他の腎代替療法として腎移植が挙げられますが、腎代替療法選択時にご紹介しており、ご希望により移植療法の可能な施設を紹介しています。



腎臓内科スタッフ

先生方からのご紹介に対して迅速に対応させていただきます。今後ともよろしくご依頼致します。

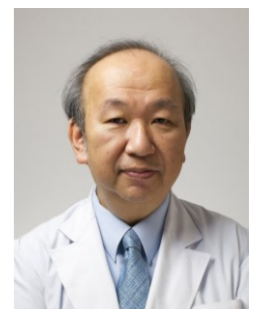


(前列右から)

宇田 晋 腎臓内科部長
小向 大輔 腎臓内科副部長

(後列左から)

加藤 亜唯 腎臓内科医員
柏葉 裕 シニアレジデント



川崎クリニック
腎臓内科
中島 豊